

## THE ROTARY CLUB OF KARIYA



Weekly



創立 1954年3月8日  
承認 1954年3月30日

例会日時 毎週月曜日  
12:30～13:30  
例会場 刈谷市新栄町3の26  
刈谷商工会議所内  
事務所 TEL (0566)22-2111  
FAX (0566)25-2111  
メール kariyarc@katch.ne.jp  
ホームページ http://www.kariya-rotary.com  
会長 加藤 真治  
幹事 兵藤 文男  
会報委員長 山下 雅則

2015～2016年度 国際ロータリー K.R. ラビンドラン 会長テーマ

Be a gift to the world 世界へのプレゼントになろう

この会報は、地球環境保全に考慮し再生紙を使用しています。

## 第2919回例会プログラム

[当年度=29回目；当月=1週目]

2016年（平成28年）3月7日(月)

## 創立記念例会

## 1. 例会……………〈司会：プログラム委員会〉

- 12:28 1. チャイム  
12:30 2. 点鐘……〈会長〉  
3. 開会宣言  
4. 国歌斉唱  
5. ロータリーソング斉唱……奉仕の理想  
6. 講師・ゲスト並びにビジター紹介  
7. 食事
- 12:45 8. 会長挨拶並びに会長報告  
9. お祝い  
(誕生日祝・結婚記念日祝・入会記念日祝)  
10. 幹事報告  
11. 出席報告  
12. 委員会報告  
13. ニコニコボックス報告  
14. 次週並びに次々週のプログラムの予告  
(3/14) ……  
新入会員アワー 田中 正之 会員  
" 後藤 直樹 会員  
(3/21) ……休 会 (法定休日)
- 13:00 15. 本日のプログラム  
卓話 「刈谷歴史ロマン～鬼日向・  
水野勝成ものがたり」  
講師 語りべふみの会  
田中ふみえ 様  
(紹介者 神谷 強 会員)
16. 謝辞  
17. 点鐘……〈会長〉  
18. 閉会宣言  
13:30 19. 散会

## 出席

会員総数 95名 出席免除 23名  
出席義務者+免除者の内例会出席者 87名  
欠席 10名 出席率 88.50%  
前々回(2/20)の修正出席率 100%

## 幹事報告

- 刈谷 RC の会員数が、黒田義之会員がご逝去されましたので、95名となりました。
- ロータリー手帳の購入希望リストを回覧させて頂きます。ご希望の方は、○印を記入下さい。
- 名古屋大須 RC の「東日本大震災チャリティコンサート」が4月21日(木)に開催されます。名古屋北 RC より「フォト俳句展」の作品出品の案内がきております。ご興味のある方は、事務局まで。

## 会長あいさつ

## 創立記念例会にあたって

加藤 真治



刈谷ロータリークラブは1954年、昭和29年3月8日に創立されました。この1954年～55年度のRI会長は「四つのテスト」を考案したあのハーバート・テラーで、RI創立50周年の年でした。現在日本には34の地区がありますが、当時の日本には東日本と西日本の2つの地区しかなく、中部地方は東日本地区（第60地区）に属していました。ガバナーは横浜 RC の柳瀬省吾氏でした。この当時、報告書はガバナーの訪問にあわせて作られていて、ガバナー訪問時までに行った事業報告とその後の事業計画を1冊の報告書として提出していました。また、年会費は2万円でした。

翌年の1955～56年度には刈谷 RC の所属する地区は第60地区から分離して第62地区（中部地区）になり、日本の地区は3つになりました。1957～1958年度には第360地区に名称が変更されました。

1965～66年度には、分区制度ができて、現在は三河地域に3つの分区がありますが、このときは三河地区分

区の1つでした。

1967～68年度、第360地区は中部地区から愛知県と長野県の2県の地区になりました。

1969年2月18日に林虎夫特別代表のもと、刈谷市の東海道本線以南と高浜市を限界区域とする刈谷南RCの設立総会が開催され、2月26日には刈谷RCから刈谷南RCに23名の会員が移籍しました。このなかには、当時刈谷木材工業(株)社長の加藤正平氏、橋本電機工業(株)社長の橋本三郎氏、久保田工業(株)社長の水越勝氏や私の叔父の加藤伊八郎などが含まれていました。

1973年7月に刈谷南RCが刈谷市部分を刈谷RCに返還し、限界区域を高浜市のみにし、高浜RCに名称変更し今日に至っています。

### 喜寿のお祝い



大竹 憲治 会員

### お祝い

3月の会員の誕生日…霜出俱弘、小林祥浩、大竹憲治、水越彌生、加藤真治、内藤昇、野村紀代彦、神谷強、角谷広高、加藤英樹、牧野健一会員。

配偶者の誕生日…竹内香子(一正)、久米直美(博明)、馬場弥生(理好)、三吉るみ子(茂俊)、加藤節子(正則)、毛受清美(豊)、後藤幸子(直樹)、加藤美奈子(貴紀)、加藤由美子(英樹)、山下美和(雅則)様。

結婚記念日…内藤耕造、野村重彦、中村美智雄、加藤恒治、橋本恭典、今村順、下谷敏朗、村上由洋、山本善明、石川友美、菅野貴之会員。

3月度入会記念日…坂 茂、原田光二、岡本巧、出口達也、稲垣俊彦、中川耕兎、佐野彰彦、都築浩介会員。

### 卓話

## 「刈谷歴史ロマン～鬼日向・水野勝成ものがたり」

語りべふみの会  
田中ふみえ 様



M 篠笛  
風雲沸き起こる 乱世の世  
この刈谷の地に生まれ 時代を駆け抜けた  
一人の武将がおりました。  
疾風のごとく 敵陣を駆けのぼり

狙いはいつも一番槍

鋼のごときその心臓は 恐れを知らず  
傍若無人の勢いで 大将の首を次々と挙げる  
人は そのすがたを 鬼と呼んだ。

家康公の従兄ながらも、  
家を捨て、名を捨て、戦場を渡り歩く  
若かりし日々

されど

信長公・秀吉公・家康公の、厚い信頼をかちえ  
徳川三代に仕え 10万石の城主となり

民に慕われ 名君として名をはせ、生涯を全うされた。  
そのお方こそ 刈谷城築城の主 鬼日向・水野勝成公。  
これは、名君勝成公の、若かりし日。

まず瑞々しい 魂のものがたり。

「水野勝成ものがたり」はじまりはじまり…!

M 和太鼓～END

「父上、どうか、わかってください。」

「ええい、ならぬならぬ!

お前のようなならず者は、赦してはおけぬ!」

「父上!」

水野勝成公、血気盛んな21歳。

上初戦で、15もの大将の首をあげ、

信長公より、功労者として旗印を賜り。

19の年で、1万人の大軍に立ち向かい、300もの首を挙げる勇猛さ。

それは誰もが認める、生まれもつての武勇の才でございました。

若くして頭角をあらわした勝成公。

しかし、その才能からくるおごりが、慎重なお父上の怒りを招いたのでございます。

「勘当だ! どこへなりとも、出てゆくがよい!」

M 効果音

「父上…なぜ、なぜ、わかって下さらんのか…。

俺は、こんなにも、刈谷藩を、そして父上を、思うておるといのに…。

もはや、父上も、ふるさとも、知らん!

俺には力がある…才能がある!

この乱世の世で、日本一の武将になってやる!」

M 効果音

親子の思いは、いつの時代も相いれぬもの…。

期待を背負った水野家の嫡男でありながら、

当時は切腹より重い刑と言われた「勘当」を、父親から言い渡された、勝成公。

名を捨て、ふるさとを捨て、全国を巡り歩く日々が始まりました。

京に上り、多くの武家に召し抱えられました。

仕えた主君は13に上り、徳川家康、豊臣秀吉、加藤清正…いずれ劣らぬ名君ばかり。

戦では、負け知らずの勝成公。

どこへ行っても、先方隊として、次々と首を挙げ、大きな功績を残しました。

どのお家にも、大切にされ、中でも秀吉公は、700石の知行まで与えられるほど。

しかし、一人の主君に長くは仕えず…  
期待を背負うと、その度に、逃げ出してしまった…。  
M 篠笛  
「ちくしょう…！ おれだって、りっぱな人間になりたい…  
認められたい…  
だが…ああ…、父上。  
おれは勘当の身。  
こんな自分が、どうして、人の上に立てる？  
ちくしょう、ちくしょう…！」  
若き日の勝成公。  
どんなに認められても  
その心には、だれにもわかってもらえぬ、絶望、  
という大きな大きな、十字架を背負っていたのでしょう…。  
戦場では、鬼と呼ばれ、  
その旗印を見ただけで、だれもが逃げ出すほど  
恐れられた勝成公。  
しかし。  
彼が戦場で向かい合ったのは自分の、弱い心。  
本当は、自分自身と闘っていたのでしょう…。  
孤独と闘い、寂しさと闘い…  
こんな苦しみの日々は、およそ10年にも及んだのでした…。  
M お鈴  
そんな勝成公の人生にも、やがて春が訪れます。  
勝成公33歳の時、  
妻・おとく をめとり、息子が授かるのです。  
たった一人、孤独に生きてきた人生に  
光がともりました。  
そして、従兄である、徳川家康公の仲介を経て、  
父・水野忠重公との面会が叶ったのでした。  
M 篠笛  
15年ぶりの親子の再会。  
ずいぶん老いた、父の姿。  
なつかしさと、愛おしさが、胸にこみ上げる…。  
今日までの日々、追いかけてきたのは、ただ一つ。  
この父の後ろ姿であった…。  
「父上…」  
「何も言うな…！」  
「父上…これまで、ご心配をおかけし、まことに、かた  
じけのうございます。  
今日までの親不孝、どうか…どうか、お許してください。  
これからは、この勝成。  
もう二度と、父上のもとを離れませぬ…！」  
「勝成…もうよい、よう、よう、帰ってきてくれた…。」  
鬼と呼ばれた、勝成公の目に、涙が光る。  
その父の目にも…。  
父と息子。15年の歳月を超えて、ここに再び絆が蘇った  
のでした。  
M 篠笛 おわり  
しかし…むつまじい親子の時間は、長くは続かなかった。  
その2年後。  
天下分け目の関ヶ原の合戦を目前に控えた、ある晩。  
なんと…お父上・水野忠重公が、暗殺されたのでござい  
ます。

M 効果音  
「父上…父上…！」  
悲しみを、胸の奥に秘め  
最後まで家康公への忠誠を貫いた、お父様の姿を、  
勝成公は胸に刻まれました。  
そして、お父上の跡を継ぎ、晴れて  
水野家当主となられたのでございます。  
やがて  
関ヶ原の合戦で、家康公が勝利をおさめると。  
勝成公は、初代刈谷藩主に任命され。  
三万石の大名となりました。  
M 和太鼓  
勝成公は、すぐさま、刈谷城築城に着手されました。  
それまで岩にすぎなかった刈谷のお城。  
それを、徳川將軍家のふるさと・三河の玄関口にふさわ  
しい、  
近代的な素晴らしい城に、蘇らせたのでございます。  
「父上…。  
ごらんください、この刈谷の城を。りっぱでございましょう。  
父上の名に恥じぬように、わたしも、人を愛し、ふるさ  
とを愛し  
生きてゆきます。  
どうか、見守ってください…。」  
春空に、厳しくもやさしい笑顔が、浮かんだ…。  
M お鈴  
それから、勝成公の人生の快進撃が始まります。  
大阪夏の陣では、大軍の大將として部下を率いながら、  
自ら一番槍を挙げ、95もの大將の首をあげました。  
その功績を認められ、  
ついには、10万石・福山城 城主となったのです。  
そして、名君と讃えられ  
70を過ぎても、孫とともに、参戦し。  
生涯現役のまま、惜しまれつつ、  
88歳で、この世をさられたのでございます。  
M 篠笛  
鬼と呼ばれた、水野勝成公。  
けれど、その真の姿は、一途に父の背中を追いかける  
純粋な魂。  
晩年、勝成公は、こんな言葉を残しています。  
「全ての士に、身分の尊い・賤しいはない。  
主君となり、従者となって、互いに頼みあってこそ、世  
は立つ習いである。だから、大事の時は、身を捨てて、  
忠義をなすのだ。  
汝はわれをば、親と思われよ。われは、汝らの子と思わん。」  
名君・水野勝成公のふるさと、刈谷の地には  
親子の深い絆が 今も息づいています。  
人を愛し、人を思い、孝養を尽くす  
ほら、貴方の中に、きっと…。  
M 和太鼓～END

おしまい